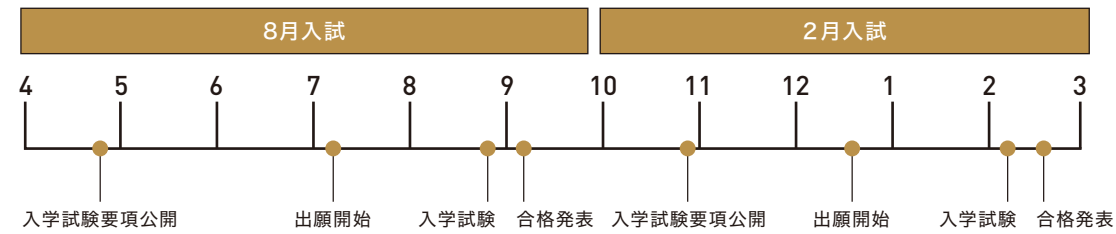


● 入学試験スケジュール

※予定であり、変更となる場合があります。



最新の入試情報は、Webサイトをご覧ください。



● 納付金

課程名	入学金※1	授業料	一般施設設備資金	実験実習料	入学年度計
博士前期課程	270,000円	550,000円	130,000円	120,000円	1,070,000円
博士後期課程	270,000円	550,000円	80,000円	120,000円	1,020,000円

※1 本学の学部(通信教育課程・短期大学を除く)から大学院へ進学する場合、入学金は免除されます。また、本学の大学院博士前期(修士)課程から博士後期課程に進学する場合も入学金は免除されます。

● 奨学金

大学院生を対象とした各種奨学金(給付型、貸与型)や研究援助(奨励金)を用意しています。制度の詳細は、Webサイトをご覧ください。

奨学金制度の詳細はコチラ



東洋大学大学院 奨学金 検索

● その他経済支援

学会・論文発表に関する奨励金やTA(時給制)による経済支援を行っております。

東洋大学大学院学生研究発表奨励金	学会発表奨励金：20,000円～200,000円(給付金額には条件があります) 論文発表奨励金：50,000円または100,000円(給付金額には条件があります)
東洋大学校友会学生研究奨励基金	学生研究奨励賞：各専攻1名、賞状及び副賞(1名20,000円) 校友会奨学金：博士後期課程在籍者から7名以内、授与記及び奨学金(1名年間300,000円)
井上円了記念研究助成	研究の助成：1件につき上限700,000円 刊行の助成：1件につき上限1,000,000円(刊行経費の半額を超えないものとする)
TA(ティーチングアシスタント)時給	博士前期課程在籍者：1,700円 博士後期課程在籍者：2,000円

※経済支援に関する情報は2024年3月時点の情報であり、金額等は変更となる場合があります。

東洋大学大学院

生命科学研究所

- 生命科学専攻 博士前期課程 / 博士後期課程
- 生体医工学専攻 博士前期課程 / 博士後期課程

食環境科学研究所

- 食環境科学専攻 博士前期課程 / 博士後期課程



朝霞キャンパス 埼玉県朝霞市岡48-1

- 東武東上線「朝霞台駅」北口より徒歩10分
- JR武蔵野線「北朝霞駅」東口より徒歩10分



【朝霞事務課】
TEL:048-468-6311 E-mail:mlfinkyomu@toyo.jp

生命科学研究科

生命科学専攻 …… 博士前期課程(2年制・入学定員25名) 修士(生命科学) / 博士後期課程(3年制・入学定員5名) 博士(生命科学)
生体医工学専攻 …… 博士前期課程(2年制・入学定員13名) 修士(生体医工学) / 博士後期課程(3年制・入学定員3名) 博士(生体医工学)

生命現象の真理を紐解き、 未来の創造に貢献する

生命科学研究科では、生命現象を理解するための高度な知識を修得し、専門分野をより深く掘り下げる能力を身に付けるとともに、広い視野と高い倫理観を持って人類が直面している地球規模の課題に果敢に挑戦し、地球社会に貢献できる人材を養成します。

生命科学研究科 研究科長
根建 拓 Taku Nedachi



Vision

生命科学専攻

専攻科目の特長

生命科学分野の高度な専門性を要する研究開発能力を養います。さらに、微生物、動物、植物などさまざまな生物の構造、生理、情報、機能制御などに関する科目およびこれらの生物と環境、生態系との関係に関する科目を配置し、幅広い学識を涵養します。

分野の
垣根を越えた連携による
教育と研究

生体医工学専攻

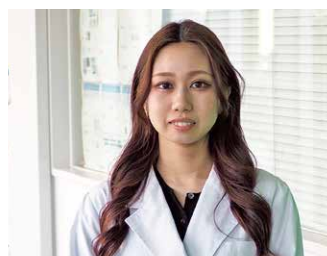
専攻科目の特長

健康・生活の質向上に対応する学問領域および先端医療工学に関する総合的教育と研究を行います。人体の仕組みに関する学際的領域、生物に関わる学問領域、細胞、分子レベルにおける医療技術に対応する先端工学領域を学びます。

専攻ごとの学問領域や
研究内容、所属教員に関する
情報はWebサイトを
ご覧ください。



Student's Voice

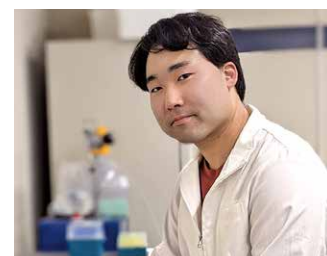


支援制度を活用し 好きな研究に 没頭できた

生命科学研究科 生命科学専攻
博士前期課程

軽部 梨香子 Rikako Karube

学部生時代は教員になりたいという夢を持ちつつも、研究室配属を通して研究の面白さに魅了され、教員採用試験合格後の大学院進学猶予制度を活用して、2年間研究に没頭することを選びました。実際に進学してみると、大学院での学びや生活に対する考え方が大きく変化したと感ずきます。学会発表を目標として自身で計画・実行することの難しさを実感しました。一方、学会発表を通して多くの研究者と交流し、新たな知識を得る喜びを経験しました。私が多くの学会発表の機会を得られたのも、井上円了記念研究助成制度や学会・論文発表奨励金制度など、金銭面でのサポートが充実しており、経済的な負担が軽減されたからです。また、生命科学研究科の講義では高度な専門知識だけでなく、多面的・多角的な思考力やプレゼンテーション能力も養えます。博士前期課程の2年間はあっという間に過ぎました。大学院での生活を充実させるためには、自分の興味のある研究分野は何か、大学院でどのような力をつけたいかなど進学するにあたって目標や自分軸を持つことが大事だと感じます。研究内容が難しかったり、「こんなこと聞いたら恥ずかしいかな」と感じてしまう人もいますが、過度に不安になることはありません。生命科学研究科の教授陣は話しやすく、研究室を越えて多くの教授が学生を気にかけてくれる温かい環境です。親身になって相談に乗ってくれる教授や学生がたくさんいます。



学生の自主性を 支えてくれる 環境が魅力

理工学研究科 生体医工学専攻*
博士後期課程

伊藤 悠晟 Yusei Ito

専門的な知識を身につけ、世界の医療に貢献できるようなものづくりをめざし社会に貢献したいと考え、博士後期課程まで進学することを選択しました。大学院生活は、私にとってかけがえのない経験となっています。研究を通して論理的思考力や実行力、協調性、プレゼンテーションスキルなどを磨き、苦手だった資料作成も克服しました。また、日々の実験、学会参加、論文投稿、後輩指導などさまざまな経験を通して、知的好奇心や達成感、研究者としての責任感が生まれ、非常に高い充実感を得られています。私の研究テーマは、ケーブルやバッテリーを必要とせず、誰でも簡単に体内のバイオマーカーを検出できるウェアラブルバイオセンサの開発です。将来的には、血液検査で測定されているような項目を、汗や涙などの体液で検査できるようにすることを目標に、日々研究に取り組んでいます。生体医工学専攻は、幅広い研究テーマを持つ研究室が多いことが魅力です。生命・生体・ものづくりに興味があれば、必ず自分の興味に合致する研究テーマが見つかると思います。また、どの先生も学生に対して熱心に指導していただき、研究と教育の両面からサポートしてくれます。大学院は自主性と積極性が求められる場所ですが、目標を持ち努力する学生にとっては、間違いなく成長の機会が豊富にある貴重な期間です。少しでも大学院進学に興味があるなら、ぜひ前向きに検討してみてください。大学院での経験は、皆さんにとっても価値あるものになるはずです。

*当専攻は2023年度入学生まで理工学研究科

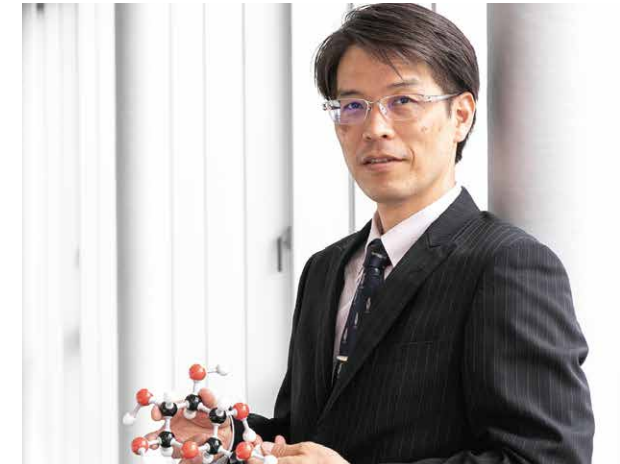
食環境科学研究科

食環境科学専攻 …… 博士前期課程(2年制・入学定員10名) 修士(食環境科学) / 博士後期課程(3年制・入学定員2名) 博士(食環境科学)
※2024年度から専修免許課程開設

いのちや健康を多角的に追究し 「食」の新しい価値を生み出す

食環境科学領域の視点から食品・栄養および運動を通じて健康寿命の延伸などの社会問題について考え、食の安全・安心に係る分野でグローバルな視点を持ち、次世代の食を創出するための創造性・柔軟性の豊かな研究・開発能力を有する研究者の養成、及び専門知識・能力を持つ高度専門職業人を養成します。

食環境科学研究科 研究科長
宮西 伸光 Nobumitsu Miyanishi



Vision

スマート農食科学領域

食物科学の視点から次世代の世界の食糧農業事情を捉え、次世代食生産加工管理技術やAR/VR技術開発の活用について研究します。

フードデータ・エコミカル科学領域

食をデータサイエンスや経済の視点から解析し、食の広域ビッグデータの活用と解析、情報機械学習モデリング技術などを通じて世界の食糧事情の先端を研究します。

グローバル食科学領域

さまざまな食の分子レベルにおける機能性やメカニズムなど、基礎的見地に基づき、世界の先端食科学を研究します。

フードマネジメント科学領域

食環境の資源管理整備から活用発展の経済性を食農経済学の視点から解析・健康長寿社会に向けた栄養科学的視点の高機能組織体系の先進的なマネジメントを研究します。

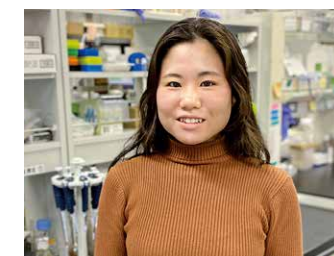
フードヘルス栄養科学領域

食を通して実践する高度な健康長寿社会・健康維持に向けた栄養科学と作物・加工調理・食心理・食意匠を体系的、科学的に探究する次世代の管理栄養を研究します。

学問領域や研究内容、
所属教員に関する
情報はWebサイトを
ご覧ください。



Student's Voice



健康に寄与する 高機能性食品を 存分に追究

食環境科学研究科 食環境科学専攻
博士前期課程

黒須 友里愛 Yuria Kurosu

管理栄養士の資格を持つ私は、食を通して人々の健康に貢献したいという強い思いから、大学院に進学しました。食環境科学研究科を選んだ理由は、食品の機能性を科学的に証明し、安全・安心と共にその良さを伝えたいという私の目標に最適な環境が整っていたからです。この研究科には、食品の成分を分析し、機能性との関係を解明する設備と専門知識を持つ研究室があります。身近な食品がさまざまな成分から成り立ち、その化学構造が機能性に影響を与えることに魅力を感じ、日々研究に励んでいます。学部生時代は国家試験勉強に追われ、思うように研究に時間を割けませんでした。しかし、大学院では実験や議論に集中できる時間が増え、研究者としての成長を実感しています。最初は焦りもありましたが、効率的な実験方法を工夫し、コツコツと成果を積み重ねることで、論文発表や学会発表、イベントでの発表を経験しました。食環境科学研究科の魅力は、多様な研究テーマと充実した指導体制です。さまざまな分野の教員とコミュニケーションを取り、幅広い知識を身につけることができます。共同研究や中間発表を通して、多くの教員からアドバイスを受ける機会も豊富です。また、充実した研修制度やアットホームな雰囲気も魅力の一つです。大学院進学には不安もありましたが、実際には知識や考え方が広がり、研究者として大きく成長することができました。食の重要性について語り合う仲間が増えることを期待しています。



多様な刺激を受け 将来進むべき道が 明確に

食環境科学研究科 食環境科学専攻
博士前期課程

千田 陸 Riku Chida

私は、大学院での2年間で研究だけでなく、プレゼンテーションや論理的思考など社会で役立つスキルを磨き、人間的に大きく成長したいと考え、進学しました。将来就きたい研究開発職で活躍するために必要な専門知識や技術を学ぶためにも、大学院での学びは不可欠だと考えていました。実際に進学してみると、視野が大きく広がりました。学部とは異なり研究活動がメインとなり、他大学の教員や学生との交流を通して、多くの知見を得ることができました。また、日頃から研究室で実際に分析機器を扱ったりしたことで分析業務をイメージすることができ、将来は品質管理や研究開発の職に就きたいという思いも強くなりました。食環境科学研究科の魅力は、食に関する様々な分野の最先端の知識や技術を持つ魅力的な先生方が集まっていることです。先生方のサポートを受けながら、国内だけでなく国際学会にも参加することができました。大学院進学を悩んでいる方、何か疑問がある方は、ぜひ先生や先輩に相談してみてください。大学院は特別な人だけが行く場所ではありません。少しでも興味があれば、選択肢の一つとして考えてみてください。私も学部生の頃は自分に自信がなく、不安もありましたが、大学院での経験を通して自信が持てるようになりました。研究は大変なこともありますが、その経験は社会に出た後も大きな自信に繋がると感じています。